



7月院生研究報告会を行いました

東北公益文科大学大学院では、院生の研究の資質向上を目指す機会として、学期ごと年2回「院生研究報告会」を開催しています。今年度2回目は7月9日(土)に実施。(今年度第1回目は5月に春学期終了予定者のみ実施。)

今回、初めて発表した修士課程1年の2名から感想を伺い、他の院生からはアンケートを取りました。自身の発表を振り返り、異なる研究領域の先生や院生から意見や質問が活発に交わされた事で、今後の研究を進める上で参考になったようです。

修士課程1年 田 雨冉 さん

私は、言語分野で中国の少数民族文化を世界へ広げるために、「マイノリティー」言語の普及方法について研究をしています。ナシ族という少数民族の「トンパ文字」を現在の科学技術を使用し、トンパ文字の保存方法を見つけたいです。

院生発表会では、先生や院生の方々からご質問をいただき、大変参考になりました。今後の研究では、情報処理技術によるトンパ文字の解析に不可欠である画像認識・文字認識の研究に力を入れたいです。



田さん 発表の様子

修士課程1年 横山 夢月 さん

私は不登校児童生徒の居場所に関する研究を進めていきたいと考えています。はじめての院生研究報告会はとても緊張しましたが、現段階での研究に対する決意表明はできたと感じています。また、専門分野が異なる先生方や院生からのご質問・ご意見をいただき、非常に有意義な機会でした。

今後は、今回いただいたご意見も参考にして、不登校児童生徒が抱える本質的な問題や研究の学術的意義についても考えを深めていきたいです。



横山さん 発表の様子

他の院生のアンケート結果の一部を掲載いたします

【感想、良かった点など】

- ・発表に対する意見や質問等があり、これまでの自身の研究を振り返り、見つめ直す機会が、今後の研究の参考になるきっかけをいただいたこと。(修士課程1年)
- ・院生からの意見が活発に飛び交っており有意義な時間であった。(修士課程1年)
- ・先生からの指摘事項を踏まえ、研究方法や内容を改めて確認できた。また、他の院生の発表を聞き、自分の研究の進捗具合を把握できた。(修士課程2年)
- ・院生からの質問が多く出たこと。(博士後期課程)

【今後の課題、改善点など】

- ・時間管理で、発表内容に対して時間が足りなかったため、発表内容等を絞る等して、時間内に完了するよう改善していきたい。(修士課程1年)
- ・データの取り方や表し方をもう少しわかりやすくすればよかった。(修士課程2年)



公開講座「特別セミナーa:庄内地域の課題解決と企業経営」を開講しました

本講座は、今年度より展開している大学院改革の重要な柱「大学院の地域連携・社会連携の推進」の新たな取り組みとして東北公益文科大学後援会との連携講座として企画・運営を行っています。受講生は大学院生の他、企業経営者、銀行員、信用金庫職員、商工会議所・商工会職員、農家、会社員など多様な社会人 17 名です。異業種の方々が庄内地域の課題に関する研究活動、グループワークを行い、4 月 29 日から全 5 日間のプログラムにより学び合いました。

6 月 25 日(土)の最終講の発表会では、

① 地域に戻ってしやすい
職場環境づくり
～有限会社菅原物流の
人材確保計画～

② 庄内発 工業製品
のブランド化
～Re Branding
TSURUOKA～

③ 農業法人化による
地域課題解決

④ 庄内地域に再生可能
エネルギーを普及
させるための方策

という 4 つの課題解決策の提案を各グループ 30 分ずつ行い、ディスカッションを展開しました。

庄内地域の課題解決に向けた新たなプラットフォームの誕生

担当教員 武田 真理子 教授

本大学院として初めて、庄内の地域課題と企業経営をテーマとした公開講座を開講させて頂きました。株式会社ホテルリッチ酒田の熊谷芳則社長、株式会社大商金山牧場の小野木重弥社長のご協力を得て、東北公益文科大学後援会の上野隆一会長(株式会社ウエノ社長)、広崎心准教授と一緒に運営を進めました。

本講座の開講の背景には以下の三つの問題意識がありました。一つ目は社会変革期への対応です。今、世界は地球環境問題、新型コロナウイルス感染症拡大などグローバルな課題や変化に直面しています。日本社会はさらに、人口減少と少子高齢化、国際競争力の低下という大きな課題を抱え、国だけでなく、地域社会、個人、そして企業がどのように対応をするのかが問われています。二つ目は、大学院改革です。上記の課題に加え、「人生 100 年時代」を迎え、世界中で教育のあり方が見直される中、本大学院においても、より多くの人々の学びと研究の拠点として、また地域課題の解決に向けた教育・研究拠点として、改革と挑戦が必要な時期にあります。三つ目は、人口減少や環境問題といった地域社会の持続可能性を問う課題の解決のためには、企業、行政、市民社会が一体となって解決に取り組むことが必要ですが、現状では多様な立場の人や組織が庄内地域の未来について考え、学び合い、対話と協働を進める場が不足していることです。

本講座では、年齢も立場も異なる受講生の対話と学び合いを重視し、事前学習を行った上で、表の 4 つの課題を抽出し、個人研究、フィールドワークとグループワークによって解決策の提案をまとめ、発表・共有を行いました。2 か月間の限られた期間でしたが、これからの庄内の発展のための重要な提案と庄内地域の課題解決のための新しいプラットフォームが誕生しました。引き続き皆様との学び合いと実践を積み重ねて参りたく、今後とも宜しく願い致します。



グループワークの様子



フィールドワークの様子
(株)ウエノ三川工場にて



グループ発表の様子



グループ発表後の交流会

大学院 Newsletter は毎月発行しています！詳しくは下記 QR コードからホームページをご覧ください。

東北公益文科大学 大学院事務室 (鶴岡キャンパス)
住所 〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14番1号
電話 0235-29-0555 メール gs@koeki-u.ac.jp
ホームページ <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/>



ホームページも
ぜひチェック
ください！